1 学年 農業科作業学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	農場の管理 (栽培ハウスの片付け)	生徒	農業科1年(生徒8名)
		場所	農場(1号ハウス)
日時	令和元年12月5日(木) 5~6校時	指導者	T1:大槻 T2:工藤 T3:中山 (松本)

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・効率よく片付けをすることができる。
- ・作業内容を理解し、的確な作業を行うことができる。
- ・協力しながら、作業を進めることができる。

(本時の目標)

- ・準備から片付けまでの一貫した作業を進めることができる。
- ・安全に気を付けながら作業を進めることができる。

2 生徒について

- ・具体的な指示がないと動くことが難しい生徒がほとんどである。
- ・作業に取り組む姿勢は真面目であるが、作業自体に時間がかかる。

3 単元における「主体的・対話的で深い学び」の各目標とねらい

(主体的な学び)

目 標：自分たちで作業の流れを考え、具体的に行動することができる。

ねらい：作業そのものを「自分たちが行うもの」として取り組もうとする意識を育てる。

(対話的な学び)

目 標：作業の内容や役割分担でお互いの意見を出しながら作業を進めていくことができる。

ねらい：通常の作業でもお互いにコミュニケーションをとりながら取り組むことができる。

(深い学び)

目 標：今回の作業の意味を理解することができる。

ねらい：ハウス内の片付けが次の作業に生かされることを理解することができる。

4 指導計画

第1回 11月21日：2号ハウスの片付け 【主・対】

第2回 11月27日：2号ハウスの片付け 【対】

第3回 12月 5日：1号ハウスの片付け(本時) 【主・対・深】

第4回 12月10日：2号ハウスの整理整頓 【主・対・深】

※授業を振り返って

参観された先生からの助言を参考にさせていただいて、生徒が自分自身で考えて行動できるような作業を展開できるようにさらに研鑽していきたいと考えた授業でした。

別紙 1 - 2

5 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具他
			MT	ST	
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・服装・手洗いの指示 ・本時の内容説明 ・必要な用具の準備 <p>(作業場スタート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が挨拶をする。 ・用具の準備 ・<u>作業の内容から必要な用具を考えて、必要分を用意する。(全体で相談する)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・日直に指示する。 ・本時の目的や内容を説明する。 (トマト、ナス、ピーマンの株を片付ける、栽培に使用した道具を片付ける、マルチを剥ぐ等項目を説明する) ・必要な用具を相談して準備させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の所在について指導する。 ・必要に応じ促しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハサミ ・スコップ ・一輪車(リヤカー) ・ゴミ袋
展開 70分	<p>(用具が準備できたら1号ハウスに移動する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>作業の手順を考える。</u> ・作業 <p>・用具の片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を持ってハウスに移動する。 ・<u>片付けの手順を考えて、発言する。</u> ・<u>作業を行う</u> トマトの株の除去 トマトを支えているヒモ類を麻紐とプラスチックヒモに分類し、回収。トマトの株を根ごと抜き、支柱も回収。 ↓ 同様にナス・ピーマンも行う。 ↓ (全ての用具が回収されたら) マルチを剥ぎ回収後、土を起こす。 ・残渣やゴミの処分 ・用具の洗浄・片付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を確認し、ハウスに移動するよう指示。 ・ハウス内の片付けの手順を大まかに指導する。 ・作業の指示を行う。 トマトの株の除去 トマトを支えているヒモ類を麻紐とプラスチックヒモに分類し、回収。 トマトの株を根ごと抜き、支柱も回収。 ↓ 同様にナス・ピーマンも行う。 ↓ (全ての用具が回収されたら) マルチを剥ぎ回収後、土を起こす。 (以上全体を見回し、必要に応じて促していく) ・残渣やゴミの処分の促し ・用具の片付けの指示を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の準備の補助を行う。 ・動きの鈍い生徒への促しを行う。 ・用具の正しい使い方をチェックする ・残渣やゴミの処分(場所) ・用具洗浄の補助(水道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラシ
整理 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめ ・本時の反省 ・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>反省の前に答える</u> ・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目的や内容の再確認 ・本日の作業の反省 ・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の作業の反省 ・挨拶 	

※「主体的・対話的で深い学び」の目標に関連する活動については_____下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	農場の管理（栽培ハウスの片付け）	生徒	農業科1年生徒8名
		場所	農場(1号ハウス)
日時	令和元年12月5日(木)5~6校時	指導者	T1:大槻 T2:工藤 T3:中山
取り入れた目標	主体的な学び	対話的な学び	深い学び

① 取り入れた目標について

作業学習では、決められた作業内容を一生懸命こなしていく姿勢が求められているように感じていた。作業の中でそのことも重要であると思う。社会人になって仕事をするようになってからもそれは大切なことだとも思う。今回の研究授業を行うまでは、これらのことに重点を置いて作業を進めてきた。

今回、作業を進めるにあたり、1. 安全に行うこと、2. 協力して作業を進めていくこと、3. 作業をより効率的に行うにはどうしたらよいのか、の3点を意識して目標を設定した。普段の作業でもこれらに加えて、何故、この作業を行わなければならないか、学ぶということはどういうことなのかということも常々考えながら作業にあたらせるようにしている。

② 授業全体について

このHRには、教室には入れなかったり、行動が極端に遅かったり、言葉の理解が極端に難しい生徒が複数名おり、HR全員の8名で作業を同じ場所で行えたことが数回しかない。この授業前に別のハウスの片付けを同じような形態で行ったが、主体的な学び・深い学び以前の問題と思うような状態であった。同じような形態を複数回行うことにより、ようやく少しできるようになった。

今回の授業でも生徒数名については、STがつきっきりであった。現在までの授業もほとんどがそのような状態でありSTなくしては授業自体が成り立たないのが現状であることが、改めて痛感させられた。

③ 今後の取り組みについて

このHRには様々な課題をもっている生徒が多く、全員で一律の作業を進めていくのは今後も難しいかもしれない。しかし、農業科の作業としてあくまでも農業の技術の向上と働くことの両立を考えるようにしたい。単純作業から自分たちで作業を組み立てていくことや、何故この作業を行わなければならないかということを考えられるような教材を準備し、これらの視点を指導者、生徒も忘れないようにしていくことをベースにしていきたい。

最終的な目標はHR8名がそろって最初から最後まで作業に参加することであるが、今回、参観された先生からの助言、安全面やボードの使用等を検討させていただき、よりよい作業になるように研鑽していきたいと思う。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	農場の管理 (栽培ハウスの片付け)	生徒	農業科1年 生徒8名
		場所	農場、1号ハウス
日時	令和元年12月5日(木)5~6校時	指導者	T1:大槻 T2:工藤 T3:中山 (松本)
取り入れた目標	主体的な学び	対話的な学び	深い学び

①取り入れた目標について

生徒たちで道具や作業について話し合いをして方向性が決まり、いざ行動に移したときに細かい部分で周囲に頼ってしまう状況や周りを見て自分の仕事を見失っている生徒がいたので、促すときは、生徒に今何をするかなど具体的な言葉掛けが必要である。

準備などの話し合いでは、一カ所に集まり全員が様々な意見を出していたが、作業が始まると個人個人で行っていて、生徒同士での声掛けが少なかったため、こちらからの促しをもう少し個人に対してだけでなく全体的に伝え、協力のきっかけを作るべきであった。

②授業全体について

全体的には、具体的な手順や積極的な発言があり、生徒同士の相談は良い方向に進んでいた。道具など生徒が確認して準備をしていたが、普段の準備と異なると少し迷いながら準備していたので、再度確認することが必要である。

限られた中での作業で生徒の動きが鈍かったり、中々進まなかったりという場面があり、生徒の中でも自分で行うという意識にかなり差があったため、個々で実感できるように、他生徒との動きや時間、作業効率など、その場での促しや反省などでピンポイントに伝えるなどして今後支援できればよいと思った。

道具の扱いに関して、生徒が一生懸命に頑張っているのは良かったが、扱っているものの危険性について理解が曖昧な場面が多々あったため、今後も継続的な注意が必要である。

③今後の取り組みについて

全体の相談や準備、作業で促しを行ったが、特に作業中の生徒への促しが適切ではなかったため生徒が不明確なまま返事をして、同様のことを繰り返してしまったことが今後の課題である。

生徒が安全に作業をするという部分で、刃物や長い物など狭い場所での作業において注意や周囲の確認、道具の扱い方など生徒が安全に作業するために事前の確認が今後必要である。

教師側が過度に支援してしまったため、生徒の自主性を重視出来ていなかったため、今後は、MTとの細かい部分の確認を事前に行うようにする。

授業参観者アンケート

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

【主体的な学び】

- ・教師の指示を受けて、反応が良く、大きな声で返事をしていた。
- ・具体的に行動しようとする様子が見られた。
- ・教師の指示を受けて、具体的に行動しようとしていくことができていた。
- ・作業の流れについて、生徒自身が自分の言葉で説明することができており、主体的に学ぶ構えができていた。

【対話的な学び】

- ・教員が参観している中でやや緊張していたが分からないことを質問したり、仲間と相談したりしていた。
- ・慣れない教員の参観で緊張もあったとみられるが、特に授業前半は対生徒同士の会話が少なく感じた。授業後半になってようやく対話する様子が見られた。
- ・作業開始の前に大槻先生の指示を受け、進行まとめ役の生徒を中心にメンバー間で積極的に作業手順の打ち合わせすることができた。
- ・話し合いがまとまらず、時間がかかってしまっていた。「①誰が ②何を ③どのようにして」取り組むのかの整理ができていないため。

【深い学び】

- ・片付けの手順を学び、協力することで安全に作業を進めることができることを実感していた。
- ・ハサミや支柱など危険なものが多く、自分の手元しか見ていない場合はケガの危険性があることを学べた授業展開であった。
- ・ハウス内の片付けが次の作業にいかされることを、大方理解できてはいるが、自分の言葉で説明することはまだ難しそうな印象である。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

- ・ボードなどを活用して視覚化したり、見通しをもたせたりするとよいのではないのでしょうか。初めて1年生の授業を見させて頂いて、実態の違いを実感しました。
- ・生徒たちの仲間に対する声の掛け方が、「ちょっと〇〇さん」や、「ほらやってよ」などと、やや怒り口調なのが改めて気になりました。「〇〇さんお願いします」など、その場で正しい言い方に直すことができるように私も指導していきます。
- ・慣れない先生との関わりに対して、返事ができていなかったことも気になりました。『誰に対しても』が定着していないことを改めて感じました。改めて指導したいと思います。
- ・個々に苦手なことの多いHR生徒にとっての主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業展開は、考える上での課題も多かったです。どう授業を展開するか…と改めて考えさせられました。まずは挨拶や返事など基本的なことから定着を図ることが大切であると、改めて感じました。
- ・集団参加が苦手な生徒や個別対応が必要とする生徒が多く、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すには、多くの課題があると感じました。私自身の反省も含め、挨拶や返事、確認していただくなどが大切なことだと感じました。授業参観させて頂きありがとうございました。
- ・笑顔の多い、明るい雰囲気の中、誰も手を抜くことなく授業に参加できていた。
- ・説明指示を聞き取れておらず間違えていた生徒がいた。メモを取らせるか、生単で使っている中ホワイトボードに書いておき、生徒が常に見られるようにするとよいのではないかと。
- ・手袋を付けている生徒と付けていない生徒がいた。
- ・はさみの取り扱い、ポケットの入れ方が気になる。刃先を中に入れれば、腿に刺さる恐れがあるが不用意に手を入れると左を負傷する恐れがある。
- ・集団活動が苦手な生徒についても、活動の内容や量を制御して上手に参加させられるよう先生方が工夫していた。

2 学年 農業科作業学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	学校祭に向けて	生徒	農業科2年生徒8名
		場所	作業室3
日時	令和元年10月31日(木)5~6校時	指導者	T1:西脇 T2:関口

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・農業の見方・考え方を働かせ、製作活動を通して草花製品に必要な知識と技術、計画、管理などに関する知識と技術を系統的に理解することができる。

(本時の目標)

- ・対話的な活動を通して、ドライフラワー製品の作成計画を立てることができる。
- ・自分の役割を理解し、主体的に活動することができる。

2 生徒について

- ・話し合いの場面で、自分の考えを徐々に伝えることができるようになってきている。
- ・人の意見に流されてしまう傾向がある。
- ・分からないことを確認しないで作業を進めることがある。

3 単元における「主体的・対話的で深い学び」の各目標とねらい

(主体的な学び)

目 標：様々な場面で、自分の考えをまとめ、周りに伝えることができる。

ねらい：人との関わりで想定される話す場面で自分の考えを伝えることができる力を育成する。

(対話的な学び)

目 標：他者の意見や考えを取り入れながら、考えをまとめることができる。

ねらい：自分だけでは気付くことが難しい気付きを得て、考えを広げたり深めたりすることができる。

(深い学び)

目 標：作成計画を理解し、製作活動に見通しをもって取り組むことができる。

ねらい：物事の取り組みの見通しをもち、計画的に取り組む力を育成する。

4 指導計画

第1回 10月28日：オリエンテーション(製品の確認など)【主・対】

第2回 10月29日：フラワーボールの作成【主】

第3回 10月31日：クリップ図鑑作成計画、作成【主・対・深】

第4回 11月1日：クリップ図鑑作成【主】

※ 授業を振り返って

平時の学習と同様に、選択場面ではほぼ全員が自分の考えを発表することができていたが、考えをまとめて伝える場面では一部の生徒の主導での展開となった。考えをまとめたり、伝えたりする場面では事前にSTと支援の仕方を確認するなど配慮が必要であった。また、複数のドライフラワー製品の作成計画を立てるということで生徒にとっては見通しがもちづらかったと思う。製品を一つに絞って学習を展開した方が生徒にとっては取り組みやすかったと思う。

5 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 前時の確認 本時の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 日直が挨拶をする。 前時に行ったことを振り返る。 本時の内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶を指示する。 前時の振り返りをする。 本時の学習内容を説明する。 		
展開 80分	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> <u>クリップ図鑑の規格を話し合いで決める。【対】</u> <u>作業事前準備の役割を話し合いで決める。【主・対】</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 画用紙を切る。(大きいサイズ) 画用紙を切る。(小さいサイズ) テプラで名称を作る。 </div> <ul style="list-style-type: none"> <u>作成計画を話し合いで立て、ワークシートに記入する。【対・深】</u> 作成を開始する。 出来高を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 規格の見本を2種類提示する。 3つの役割について具体的に説明する。 ワークシートを配布し、話し合い記入を指示する。他の製品(写真立て等)の作成ことも考えながら計画するよう言葉掛けする。 道具を配布し、作成を指示する。 出来高を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞いていない生徒について個別に支援する。 必要に応じて話し合いの進行を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> クリップ図鑑見本 画用紙 定規 鉛筆 カッター テプラ ワークシート
整理 10分	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> <u>出来高を基に作成計画の改善点があれば話し合いをする。【深】</u> 日直が挨拶する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画の変更などがあれば聞く。 挨拶を指示する。 		

※「主体的・対話的で深い学び」の目標に関連する活動については、_____下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭に向けて	生徒	農業科2年生徒8名
		場所	作業室3
日時	令和元年10月31日(木)5~6校時	指導者	T1:西脇 T2:関口
取り入れた目標	主体的な学び	対話的な学び	深い学び

①取り入れた目標について

自分の考えを伝えるという主体的な学びに関しては、規格選びの場面や役割分担においてほぼ全員が自分の意見を伝えることができていたが、作成計画を考え、話し合う場面では提示した複数のドライフラワーの題材や工程の見通しが立てにくく、一部の生徒しか考えをまとめることができなかった。その結果、話し合いに参加できない生徒がいた。

作成計画を立てることが難しい生徒もいたが、仲間の意見を聞き、自分の考えをまとめながら改善案を述べるなど対話的な学習を行うことができていた。一部の生徒は個別に支援しながら考えを整理することで話し合いに参加することができた。

作成計画に見通しをもつという深い学びに関しては、話し合いでまとめた作成計画をワークシートに書き写し、丁寧に制作スケジュールについて説明をしたが、題材が複数にわたっていたこともあり、一部の生徒には理解が難しかった。

②授業全体について

物事を決めるときに選択肢を入れる。作業の役割を決めるなど普段の学習で取り入れていることに関してはどの生徒も考えをまとめ、積極的に意見を述べたり、話し合いに参加することができていた。

本授業ではドライフラワー3製品の作業計画ということで見通しが立てにくかったと思う。題材を1つに絞って計画を立てるなど工夫が必要であった。話し合いの場面では生徒同士が自分の考えを伝えるために言葉を選んで丁寧に伝えようとする様子が見られ、対話的な学びのねらい以上の成果が見られた。

③今後の取り組みについて

作業学習のこれまでの取り組みにより、生徒が各々考えをまとめ伝える場面が増えてきた。学習場面においては納期がいつまででいくつ仕上げるかを提示し、納品までの進め方は生徒同士の話し合いを積極的に取り入れ、学習に反映していきたい。また、計画が予定どおりに進まないことによる作成計画が変更することも随時経験させることで常時製品づくりの技術、計画、管理などに関する知識や技術を系統的に指導していきたい。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	学校祭に向けて	生徒	農業科2年生徒8名
		場所	作業室3
日時	令和元年 10月31日(木)5~6校時	指導者	T1:西脇 T2:関口
取り入れた目標	主体的な学び	対話的な学び	深い学び

① 取り入れた目標について

これまでの作業学習の中で、各作物で担当者を決め、作業内容や自分の考えを周りに伝えたり、共有したりするよう取り組んできた。作業での経験や技術を生かし、学校祭までの残り日数でどのように製品を完成させていくか見通しを立てることがある程度できた。本で行った作業は初めての製品作りで見通しが立てにくい部分もあり、全員の意見を反映することが難しい部分あったが、製品を完成する意識を共有することができた。

② 授業全体について

作業計画を立てるあたり、事前に用意した作業内容に沿って時間や人数をイメージして計画をおおむね立てることができた。しかし、文章を書くことや考えることが苦手な生徒は計画することが困難だったため、記入や進行の支援を行い、考えさせることができた。また、計画後の実際の作業では、カッターを使用し、紙を決められたサイズに切る作業をしたが、普段の紙と違い、うまく切れない生徒が多かった。そのため、はさみ等を使い、効率よく作業できることに気がつくことができるアプローチをもう少し入れても良かったと感じた。

③ 今後の取り組みについて

今回計画した作業計画を実践していく中で、今後も内容変更や人数配分を変えていく話し合いをしていき、先を見通すことを常に意識した授業を展開していく。STとして理解に難しい生徒への支援の必要度を考えながら伝えていく。また、今回の作業で一般的なカッターやはさみの使い方得意不得意が見えたので今後の作業に生かしていく。また、授業や普段の生活の中で生徒の技術的要素の把握をしていき、作業学習で意図的に場面設定することの必要性を感じた。

授業参観者アンケート

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

【主体的な学び】

- ・生徒自身で話し合いを進め、分からない所を教師や仲間同士で対話しながら、問題を解決することができていました。また、話し合いの最後には、全員の生徒が自分の意思表示ができていたことから、発言の少ない生徒も主体的に思考することはできていたと思われます。
- ・理解力の低い生徒や、消極的な生徒の発言の場が確保されづらい面が見られましたが、ワークシートの内容を選択式にすることなどで、より主体的に思考することができると思いました。
- ・最初に生徒が一人で計画を立てる時間を設定したことによって、この後の話し合いがスムーズに行うことができたと思います。

【対話的な学び】

- ・クリップ図鑑の規格の大きさを話し合いで決めるときに、大きい規格にすることのメリットとデメリットや小さい規格にすることのメリットとデメリットについて話し合いができていたらもっと対話的で深い学びになったと思います。
- ・作業事前準備の役割を話し合いで決めるときに、教師が何も言わなくても生徒が積極的に司会を行い、話し合いで役割を分担できていたので素晴らしいと思えました。

【深い学び】

- ・作業にどの位の時間と人数が必要なかを今までの経験から考えて計画を立てる題材は、今後様々な場面で活用できるので、深い学びになったと思います。あと何個製品を作らなければいけないのかなど具体的な目標個数の助言があれば、より見通しをもった話し合いができたと思います。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

- ・今後の作業量が視覚的に提示されたことで、今後の作業計画を考えるという本時の目標とうまくつながっていました。
- ・仲間同士で考える時間と、個人で考える時間があった点が良かったです。しかし、その時間が曖昧になりやすかったので、明確な提示があるとより主体的な学びになると思います。
- ・今後の日程の表と行わなければいけない作業が書かれている教材があったので、生徒が説明するときに時間短縮でき、かつ分かりやすくなるような工夫がされていました。
- ・作成するとき、STがテプラの作業の補助になり動ける教員が一人になり、画用紙の効率的な切り方が分からない生徒が多い状況であったので、画用紙の切り方を説明してから個別作業を行えば良かったと思います。
- ・自分で考える時間が示されていないため、タイマーを使用して時間を区切って授業した方が良かったと思います。

3 学年 農業科作業学習指導案

単元・題材名 (授業名)	卒業制作 (看板作り)	生徒	農業科3年生徒6名
		場所	作業室3
日時	令和元年 12 月 19 日(木) 3、4校時	指導者	T1:小原 T2:矢倉 T3:中山

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・協力して役割分担をして卒業制作作業に取り組むことができる。
- ・作業内容を理解して的確な作業を行うことができる。

(本時の目標)

- ・正確に作業を進めることができる。
- ・正しい道具の使い方、安全に作業することができる。
- ・協力して片付けることができる。

2 生徒について

- ・おおむね指示が通るが、正確に理解できるまで時間がかかる。
- ・指示以外の方法を仲間と考えることはできるが、教員に連絡、報告が無く無断で指示以外のことを行うことがある。
- ・欠席する生徒が多く、生徒数が少ないことがあり作業学習の時数に偏りがある。

3 単元における「主体的・対話的で深い学び」の各目標とねらい

(主体的な学び)

目 標：仲間と作業分担をして取り組むことができる。

ねらい：指示された作業内容を理解して分担し作業能力を高める。

(対話的な学び)

目 標：作業方法など効率良くおこなえるように、話し合いができる。

ねらい：道具の使い方や作業手順を仲間と確認し、知識や技術を高め合う。

(深い学び)

目 標：作っている物が、どのように活用させることができるか考えることができる。

ねらい：長い期間活用してもらえ物を協力し考えながら作ることができる。

4 指導計画

- 第1回 12月17日：オリエンテーション 作業順の確認 【対・深】
- 第2回 12月18日：木材に切る部分の線描く。木材を切る。 【主・対】
- 第3回 12月19日：木材を切る 木材にヤスリをかける。(本時) 【対】
- 第4回 12月20日：木材にヤスリをかける。 【対】
- 第5回 12月24日：木材に色を塗る。 【主・対】

※ 授業を振り返って

仲間と作業分担して取り組むことができたが、意思疎通が少し足り無い場面があった。作業方法などもう少し細かく伝えた方が良かったと感じた。

看板の活用方法など意識して作業に取り組めた。木材を曲がって切ると見栄えが悪くなるなど考え、慎重に作業に取り組めた。

別紙 1 - 2

5 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 本時の内容 必要な道具の準備 	<ul style="list-style-type: none"> 日直が号令をする。 <u>道具を協力して用意する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 日直に指示を出す。 本時の作業内容を話す。作業に使う道具の危険性や正しい使い方を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と共に準備し、必要に応じて助言をする。 	電動糸ノコギリ ノコギリ 指金 差し金 マジック
展開 80分	<ul style="list-style-type: none"> ベニア板、くい部分を切る 木にヤスリをかける 	<ul style="list-style-type: none"> <u>ノコギリや電動糸ノコギリを使いベニヤ板やくい部分をきる。</u> <u>切り終わったら、ヤスリをかける。</u> 各自の作業が終わった場合は、終わってない人の作業を手伝う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に電動糸ノコギリやノコギリの使い方の見本を見せ危険性を確認する。 間違った使い方をしていないか確認しながら巡回する。 	<ul style="list-style-type: none"> 電動糸ノコギリ作業の隣に付き補助をする。 ノコギリ作業の隣に付き補助をする。 	
整理 10分	<ul style="list-style-type: none"> 清掃 反省 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> <u>役割分担（自分の持ち場）を清掃する。</u> 整列し日直が仕切る。 日直の号令で挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 役割分担が均等にできているか確認し随時指導する。 良かった点、もっと工夫すると良い点を助言する。 		

※「主体的・対話的で深い学び」の目標に関連する活動については、_____下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	卒業制作（看板作り）	生徒	農業科3年生徒6名
		場所	作業室3
日時	令和元年12月19日(木)3~4校時	指導者	T1:小原 T2:矢倉 T3:中山
取り入れた目標	主体的な学び	対話的な学び	深い学び

①取り入れた目標について

作業方法など効率良く行えるように話し合いができるという目標は、道具の使い方や木材を効率良く切る方法、木材を押さえる方法など、相手に合わせながら作業を行い、知識や技術を高め合うことにより、話し合いながら進め、作業学習以外の場面でも生かされるようになって欲しいと考える。

「主体的・対話的で深い学び」の3つの観点があるが、作業学習の観点から見ると、各観点を狙うのが難しいと思った。自分のねらいと他者の感想は、かなりかけ離れていると思う。また、生徒が少なくSTとの連携が難しかった。

②授業全体について

生徒が2名と少ない中での公開授業だったので、生徒もいつも以上に緊張しており、意思疎通や相談の場面が少なかったと反省している。

木材を切ることは丁寧にできていたが、本時のねらいであった対話的な学びが予想以上に少なく、雰囲気は徐々に悪くなっていった。アドバイスや助言のタイミングを増やしたほうが良かったと思う。

③今後の取り組みについて

生徒の実態に合わせ、作業学習の内容を変えていかなければならないと思う。今までの3年農業科での作業学習は、初めて行う作業のときの相談の場面で、主体的・対話的な学びを多く感じる。相談を多くすることで、深い学びに繋がっていくと感じた。

生徒に魅力や興味関心がある題材を考えていき、「主体的・対話的で深い学び」が実践できるように取り組んでいく。

授業参観者アンケート

「主体的・対話的で深い学び」についての評価

【主体的な学び】

- ・「看板を1から自分たちで作る」という題材は、生徒の興味関心を引き出すとても良いものだと感じた。
- ・指示された作業内容を理解して、分担について生徒同士で声を掛けて取り組むことができていた。

【対話的な学び】

- ・教師から言葉掛けが何度もあったが、生徒はその言葉に対し、向き合っただialogをするという様子ではないように感じた。教師から何か助言があった際には、教師に対してしっかり正対したり、アイコンタクトを取ったりするなどの指導が必要ではないか。その行為が結果的に、安全意識や危機回避意識に繋がると考える。
- ・板を押さえる位置など、話しながら行うことができていた。

【深い学び】

- ・反省で生徒が「切ることに集中して、先生のアドバイスを実行できなかった」と話していた。
⇒「どのような刃の入り方が適切か、またそれはなぜか」など学習を通して探求できれば、より深い学びが促進されたのではないかと考える。
- ・作ってるものをどのように活用させるかを考えている場面はなかったように感じた。(授業をすべて見てはいないので、あくまで見ていた範囲では)

授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）

- ・安全に木材を切る環境を整えるのに、生徒から教師へ依頼するようにすれば、更に生徒の危険回避意識が養われるのではないかと感じた。
(本時はSTが何かを避けるなどの動きがいくつかあったため)
- ・椅子が傾いていることに気づき、板を入れ改善していたことが良かった。
- ・切るのに苦勞し椅子や机を試していたので、たくさん切る必要があるとき、安全面や姿勢が厳しくなるので、机と板をクランプで押さえて切っても良かったかも。
- ・少人数ではあったが、緊張感を持って真剣に取り組んでおり、ノコギリの扱いを慎重に行っていた。
- ・力の入れ方など必要に応じて、MT・STから助言していたが、動きがスムーズではない生徒がいた。
- ・指示以外の切り方をしようとする生徒にすぐに声を掛けて修正させ、危険がないようにすることができていた。
- ・鋸の歯を正面から見て切っていたので、ロス無くスムーズに切れていた生徒もいたが、その逆で、目線がズレていたため鋸の歯も曲がりロスが多かった生徒もいた。